

木材デューデュリジェンスセミナー(オンライン):  
持続可能な木材調達のためのサプライチェーン管理



地域や社会、環境の課題に対応した企業 株式会社 中村製材所  
中村展章

- ① 事業概要～森林と都市をつなぐ～
- ② 弊社が取り組むDD
- ③ 環境社会配慮～SDGs への展開～
- ④ SDGsを通して感じること

- ① 事業概要～森林と都市をつなぐ～  
取り扱い: 建築材・家具材・木製品
- ② 弊社が取り組むDD
- ③ 環境社会配慮～SDGs への展開～
- ④ SDGsを通して感じること

# 林業と椎茸の村 諸塚村

Morotsuka  
Access







くぬぎ、コナラの家具と小物  
村の在り方そのままに



# 東京 表参道の 諸塚村



Morotsuka Village in Tokyo • motesando



「都市と山村の生活を潤す森づくりの薦め」という題で、諸塚村里山広葉

## 5 2011年2月19日・諸塚村 製品発表会& フォーラム



フォーラムの出席者



◆高調講演  
**松下修** (まつしたおさむ)  
松下生活研究所コンサルとして諸塚村の農産住宅事業を提案するとともに、提議する工務店グループを形成、FSC-COC 認証も取得。NPO 法人パーマカルチャーネットワーク九州代表理事、NPO くまもとソーシャルバンク副理事、木になる紙事務局長、熊本大学非常勤講師、公共政策学博士。



◆コーディネーター  
**中澤健一** (なかざわけんいち)  
環境NGO FoE Japan / フェアウッドパートナーズ木材のグリーン購入推進のためのフェアウッド・キャンペーンを立ち上げ、住メメーカーや家具メーカーなどの木材調達方針の策定や運用も支援している。著書に「フェアウッド? 森林を破壊しない木材調達」。



◆パネラー  
**若本裕貴** (わかもとひろき)  
(財)ウッドピア緑環事務局長特産品開発や地域資源の開発に携わったほか、市町村森林整備計画、森林整備事業、村有林整備を推進。また権原原木林の樹種転換によるクスノキ森林の減少に歯止めをかけることを目的に開始された「権原原木保全対策事業」立ち上げに携わる。



◆パネラー  
**中村展章** (なかむらのひろき)  
①中村製材所代表取締役福岡県内の自治体へ学習種子・林の杉給魚成材を5年間で1200〜1400セツ/年を納品。2006年FSC森林認証を取得、日本ではじめて認証製品を国内輸入。2010年アメリカの建築性能評価LEED認証の建築カテゴリーへFSC認証製品を納入。大川木材青年会会長、九州木材青年連合会事務局長。



◆パネラー  
**佐藤岳利** (さとうたけとし)  
株式会社ワイス・ワイス代表取締役表参道ショップにてオリジナルの家具販売及びインテリアコンサルティング、東京ミッドタウン(六本木)にて「暮らしの提案」の専門店WISE-WISE tools を経営。また国産材や認証木材の使用比率を2015年までに50%以上にすることを目標に掲げ、「WISE-WISE GREEN PROJECT」を展開中。



◆パネラー  
**桑田一彦** (くわたかずひこ)  
(株)ロジエ取締役会社社長の乃村工務社で教育・採用・人事制度改善、フリーペーパーの立ち上げ、インターネット事業責任者、広報部を経て2009年2月よりロジエ取締役に就任。ロジエは創業50年のキフト会社。全国の百貨店など128の販売拠点があり300のオリジナル商品を出している。



◆まどめ  
**矢房孝広** (やふらたかひろ)  
諸塚村企画部長兼諸塚村産直住宅推進室事務局長1995年リターンして諸塚村役場入庁。翌年から産直住宅プロジェクトに参画2010年末までに選定220種を供給。2004年には日本で初めての村ぐるみのFSC森林認証取得に携わる。



今回のプロジェクトで  
取り組んだ  
諸塚村の里山の木が、  
家具や小物になるま  
での工程をご紹介します。

# 4 里山の木が 家具になる。

## ■ 出材 (ウッドピア諸塚)

ウッドピア諸塚が出材する原木は年に約1,000m<sup>3</sup>でそのうち21cm以上の規格外大径木の割合は5~6%前後です。現場では重機を使って木をひきあげワイヤーで集めて、コナラ、クスギ、規格を仕分けしてトラックに積み出材しています。通常1トンで0.8m<sup>3</sup>と計算しています。



■クスギ



■コナラ原木



■ミスナラ原木

プロジェクトの初年度で使われた材は伐った時期が悪かったり、半年間野ざらしにされていたり非常に条件の悪いものしか手当てできませんでした。原木で1.5m<sup>3</sup>でした。

## ■ 製材、乾燥 (中村製材所)

今回取り組みましたコナラ・ミスナラ材の状態があまりよい物ではありませんでした。伐期や保管状態が起因したのかピンホールやヤケが見受けられました。



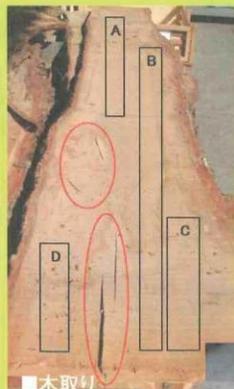
■ヤケ



■ピンホール



製材後、板の状態が自然乾燥の時間を取らなかったのですが、これもまた時間の都合によりほとんど取れなまま人工乾燥を施しました。



■木取り

最終的には、歩留まり10%ほどで、原木の選別から対応しないといけないことを痛感しました。



■そり

## ■ 木取り (中村製材所)

約40℃から徐々にスチームをあてながら75℃ぐらいまで上げていき、約3週間をかけて乾燥させました。出来るだけ負荷をかけずに配慮しましたが、乾燥後の状態はソリや割れなども発生し、結果的には1枚1枚板の表面を見ながら木取りをしていかなければなりませんでした。



■ミスナラ27mm



■木取り後



ミスナラ27mm・38mm・48mmの29枚よりどうにか椅子4脚分の木取材が取れました。但し、予備材が取れていない状況です。



■集製材の加工



■天板

1回目の結果を踏まえて、2回目の試作では秋の適期に伐採した中から選木した材を使って開発を進めています。海外からの広葉樹材の供給は、年をかさねることに厳しくなっています。あらたな資源の開発には、重要な意味があると思います。



## ■ 小物デザイン、加工 (ロジエ)

靴べらと小物温湿度計などをつくりました。木目の細かい広葉樹は表現しやすく、サンプルをもらった時そんなに課題はないとおもいました。ただ小物は家具のように広い面積がないので形は同じでも、木目の出方で1個は白い、1個は黒いとなると、デザインにどうおこいでいか、またどう説明していくかが課題だとおもいます。



## ■ 家具デザイン、加工 (WISE・WISE)

新しくオリジナルの開発をするには半年ほどかかり、ターゲットなど含め始めから組み立て直す必要があるため、今回は従来クリ材で作っている「SATOYAMA」というモデルで作りました。山形の家具工場で作りましたが九州にも大川という家具の町があり先々はそちらで作ることも可能です。

Moretsuka Village  
in Tokyo  
●metesando

【キャプション】(上から左下へ)

- 1.宮崎県・諸塚村には、森と共に生きてきた歴史がある。
- 2.大きくなり過ぎてシイタケ原木には不適合なクヌギ。
- 3.今回のプロジェクトメンバーの役場職員、シイタケ農家、家具職人、デザイナーの小泉誠さん。
- 4.静寂が広がる冬のクヌギの森。秋にはどんぐりを実らせる。
- 5.家具を製作する株式会社クワハタ(三股町)で最年長の職人さん。
- 6.小泉さんの図面とノート。
- 7.クヌギのほだ木が並ぶ農場で、肉厚のシイタケが育っていた。

▼諸塚村のどんぐり材から生まれた家具

どんぐり材の家具

MOROTSUKA モロツカ



## ワイスワイス(WISEWISE)の家具・インテリア(MOROTSUKA モロツカ)





- ① 事業概要～森林と都市をつなぐ～
- ② 弊社が取り組むDD
- ③ 環境社会配慮～SDGs への展開～
- ④ SDGsを通して感じること

FSC® 認証材と地域材



FSC認証とは

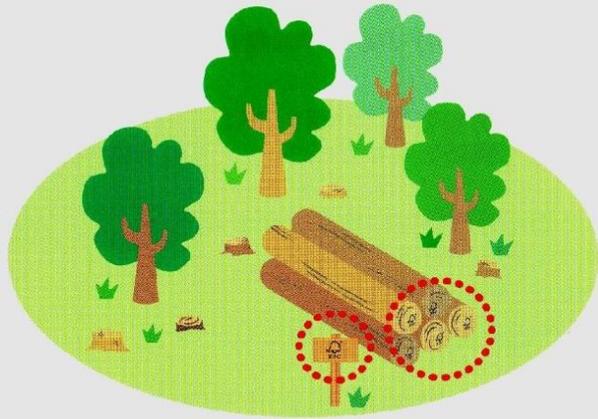
「環境的、社会的、経済的に適切な管理がされた森林の木材の商品に対する認証」



# ① FM認証

( Forest Management )

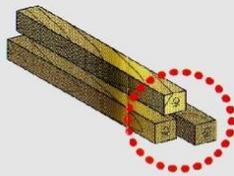
森林管理を対象とした認証です。FSC「10の原則」に基づき、「環境」「社会」「経済」のバランスのとれた管理を実施している森が取得できます。



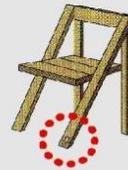
# ② COC認証

( Chain of Custody )

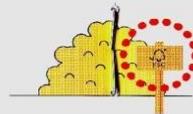
加工・流通を対象とした認証です。認証された森から伐り出された木材が、他の製品と混ざらないような管理をしているか等をチェックします。



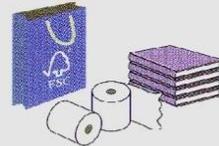
製材所



加工所



チップ工場



製紙工場・印刷所



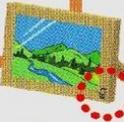
# ③ 販売店

COC認証を取得する必要がありません。



# ④ 消費者

製品は、付いているロゴマークの認証番号で管理されています。



# FSC認証森林



日本初 森林認証仕様製品を国(林野庁)へ納品  
2006年





環境に配慮した  
グリーンストア第1号店



## 日本橋三越本店の再開発(リモデル)グランドオープンにおける フェアウッドの取組み

～隈研吾氏がデザインした新作椅子やインフォメーションカウンターなど  
FSC®認証材を使用した家具・什器の制作、販売を推進～

株式会社三越伊勢丹ホールディングス(本社:東京都新宿区、代表取締役社長執行役員:杉江 俊彦)の子会社である株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:常松 恭一、以下「IMP D」)の建築・デザイン事業は、10月24日(水)の日本橋三越本店の再開発(リモデル)グランドオープンに合わせ、建築・デザインにおいて店舗環境に対してもサステナブルな取組みや意識が高まる中、世界で最も信頼度の高い森林認証制度として国際的に知られるFSC®(Forest Stewardship Council®:森林管理協議会)の認証材、フェアウッドを使用した家具・什器・内装品の制作、販売を強化し、推進してまいります。

### 【建築家 隈研吾氏がデザインした「樹冠」をデザインソースとした新作椅子「topo (トポ)】

日本橋三越本店リモデルの本館1階の環境デザインを手掛けた建築家 隈研吾氏は、デザインテーマを「白く輝く森」とし、アールデコ調である既存の内装に多く使われていた植物のモチーフを現代的なデザインで復活させ、森と結びつけることで今にふさわしい空間を目指しました。天女像が鎮座する中央ホールへと続く通路に連なるのは、光輝く白い「樹冠」。

この「樹冠」のデザインを、IMP Dの六郷工場の技術によって家具へと展開した、新作椅子「topo (トポ)」を開発しました。100年を超える工場歴史の中、常に時代を彩るハイエンドな家具等を製作してきた技術力と経験をもとに、隈氏のクリエイティブな木材への想いを具現化した個性的な椅子が完成しました。素材はFSC®認証を受けた木材を使用し、よりサステナブルな逸品です。



建築家 隈研吾氏



日本橋三越本店本館1階  
椅子のデザインソースとなった環境  
デザインの象徴である「樹冠」



新作椅子「topo」  
日本橋三越本店本館5階リビングにて  
受注販売いたします。248,400円(税込)

### 【日本橋三越本店のインフォメーションカウンターやレセプションにもFSC®認証材を使用】

IMP Dが制作した本館1階・新館1階の各インフォメーションカウンターや本館1階のレセプションにもFSC®認証材を使用しており、隈氏のデザインした複雑な形状や、異素材との組み合わせによる木質デザインだけでなく、様々な表層デザインに対応した仕上げなど、クリエイティブの細部までの再現にこだわり仕上げております。



本館1階 ライオンインフォメーションカウンター  
テーマ:華のおでむかえ  
白く輝く森を象徴する「華」のデザイン



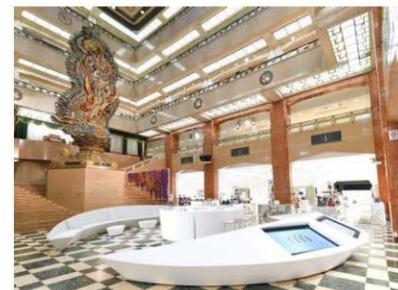
本館1階 室町インフォメーションカウンター  
テーマ:あかりのおでむかえ  
日本橋北詰につながる室町町の歴史に呼応する「和紙あかり」のデザイン



本館1階 南口インフォメーションカウンター  
テーマ:屏風のおでむかえ  
アールデコをモチーフとし、樹冠と調和する「屏風」によるおでむかえ



新館1階 日本橋インフォメーションカウンター  
テーマ:暖簾のおでむかえ  
「暖簾」をモチーフにした柔らかいおでむかえ



本館1階 中央ホール レセプション  
テーマ:デジタルを活用したおもてなし  
ホテルのレセプションをイメージしたホールでのおもてなし



責任ある森林管理  
のマーク

IMP Dは、SDGsやESG投資などを意識するクライアント企業の環境配慮への取組みが高まる中、FSC®認証製品への需要は今後増えることが予想され、さらなる同認証製品の拡充を目指し、調達及び生産体制の強化へ向けて、製材所・木材卸・家具工場などのサプライチェーンへの参画を促し、安定した認証製品の供給ネットワーク体制を整えていきます。

### ■IMP D 建築・デザイン事業の特徴

ホテル、オフィス、公共施設、各種商業施設等多岐にわたり、上質な空間を創造します。企画・デザイン・作図・施工及び施工管理、家具・備品調達に至るまで空間創造の全ての場面でトータルプロデュースできることが当社の建築・デザイン事業の強みです。また、都内に100年の歴史を越える直営工場<六郷工場>を保有しており、実際に使用する木材に触れながら、それぞれの専門の職人と一緒に検討し、常に高品質な家具を提供する体制を整えています。

- ・IMP D 公式サイト: <http://www.impd.co.jp>
- ・六郷工場 森林認証 FSC®-CoC 認証および、PEFC-CoC 認証 取得に関して:  
<http://www.impd.co.jp/img/home/IMP D.FSC-PEFC.pdf>

報道関係お問い合わせ  
株式会社三越伊勢丹ホールディングス 広報  
TEL 03-6205-6003

# 「木材利用促進法」 公共建築物等における木材 の利用の促進に関する法律

平成26年に公布、同年施行





「一般県産材」生産履歴証明書

項目	内容		摘要
1 生育状況	生育地市町村	神埼郡吉野ヶ里町	
	樹種	ヒノキ	
	樹齢	50年	
2 素材生産	条例登録業者名	株式会社 伊万里木材市場	(登録番号 佐木伊-15)
	伐採年月日	令和元年10月26日	
	搬出年月日	令和元年10月26日	
3 流通	条例登録業者名	株式会社 伊万里木材市場	(登録番号 佐木伊-15)
	販売年月日	令和元年11月11日	
	取引伝票番号		
4 加工	条例登録業者名		(登録番号 - )
	加工年月日	令和 年 月 日	
5 木材流通	条例登録業者名	株式会社 中村製材所	(登録番号 佐木佐-15)
	販売年月日	令和元年12月4日	
	取引伝票番号		
6 規格	寸法	φ300mm×4,000mm(4本) φ300mm×4,000mm(3本)	

※上記生産履歴証明書の内容に相違ないことを確認しました。

令和元年12月6日

佐賀市本庄町大字本庄278番地4  
 さがの木流通管理センター  
 センター長 栗原 英一郎



日本木材青壮年団体連合会



木づかい  
 CO<sub>2</sub>固定量  
 認証書

発行番号 12-0019  
 平成25年 1月30日

平成24年11月27日付で申請依頼のありました木材利用による二酸化炭素吸収量及び炭素固定量の算定結果として、下記の通り報告致します。

- 建築物名称(施設名称)  
**新栄小学校管理棟 改築(新築)工事 (995.05m<sup>2</sup>)**
- 建築物所在地  
**佐賀県佐賀市新栄東二丁目6番34号**
- 合法木材による使用木材量 **253.30520 m<sup>3</sup>**

使用木材における

炭素(C)固定量 **40.14096 t-C**  
 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収量 **147.18353 t-CO<sub>2</sub>**

算定式

(樹種別の使用木材の材積量)×(容積密度)×(炭素含有率)=使用木材における炭素固定量  
 (上記使用木材における炭素固定量)×(二酸化炭素換算係数)=使用木材における二酸化炭素吸収量  
 ※算定において、使用木材の容積密度及び炭素含有率は、別途、日本木青連が定める「木づかいCO<sub>2</sub>固定量算定基準」に基づいております。

算定者 日本木青連 木材炭素固定量認証マイスター  
 マイスター登録No.0006

中村 展章

認定団体



東京都江東区冬木6-14 飯沼ビル102  
 日本木材青壮年団体連合会  
 会長 吉田 良弘



- ① 事業概要～森林と都市をつなぐ～
- ② 弊社が取り組むDD
- ③ 環境社会配慮～SDGs への展開～
- ④ SDGsを通して感じること

SDGs × 地域材

SDGs × 認証材

連携



SKINWOOD®

令和元年6月13日  
佐賀新聞

# 社会を変えるSDGs



佐賀新聞環境特集 2019



グリーン木材に製材業界と社会の持続的な発展をいいたす中村製材社長。後ろはFSC認証木材＝佐賀市高野の中村製材所

## グリーン木材で未来を創る

SDGsをキーワードに、持続可能な製材業を模索する中村製材社長（左）は、26歳業界に入ってきた。戦後の国産の造材活動で、1964年頃に70%あった木材自給率が、木材輸入の自由や円高による輸入拡大で、2010年頃に20%を下回るように、伐採し緑林の循環ができなくなると日本の森林の状況を危惧した中村社長は、社会に対する木材の価値を高めることで国産材の利

### 木材の価値

森林の保全は世界的な課題。SDGsでは陸上資源を守る目標15で、持続可能な森林の経営を掲げる。佐賀市高野の中村製材所（左）は、FSC（Forest Stewardship Council）で、木材の利用に持続可能性という観点から森林の木材利用拡大を図るなど、さまざまなアイデアで環境や社会に配慮し取り組みを広げている。

### 新たな可能性

同社は2016年に認証を受けた九州産材が管理するFSC認証森林から木材や木製品を提供している。例えるなら、スタアスターバックスがコヒーレンス性のある環境に配慮した店舗建築に協力。2017年にオープンした福岡大塚公園店は、米国のグリーン環境基準である「LEED（Leadership in Energy and Environmental Design）」を、世界中のスターバックスで初めと取得した。

## 持続的な森林経営へ二石 中村製材所（佐賀市）

用拡大を狙う。

木材に加える新たな価値への大きな柱は、「適切に管理された森林」を認証するFSC（森林管理協議会）による国際的な森林の認証制度。FSCは、環境やそこに住む人々の社会を守りながら、地域経済にも貢献する森林の管理の姿を証明する。認証された森林の木材は、持続的な環境に貢献する」という価値がある。



中村製材所が木材を提供し、アメリカの建築基準「LEED認証」を取得したスターバックス福岡大塚公園店（福岡市）

### 人材の育成

中村社長は、SDGsを通じて今後の社会課題の解決を目指す人材の育成に力を入れている。今年1月には日中韓3カ国の大学生が参加したSDGの取り組みをめぐり、「社会や経済環境に問題意識を持ち、今後の時代に必要とされるアクションを取ることがSDGsにつながる」と生じた「トドメ」を述べた。

「LEED認証の新築カフェ」を、世界中のスターバックスで初めと取得した。昨年の「緑日本舗本店東京」のモデル店舗「トドメ」では、1階インフォメーションカウンターを、世界初の「グリーン木材」で作り直した。これは、木材の価値を高め、木材の持続的な発展を支える可能性を示している。近くには企業の投資で環境（Environment）社会（Social）、ガバナンス（Governance）への配慮を促す「ESG投資」が注目を集めている。こうした流れの中で、中村社長は時代のニーズに合ったビジネスモデルを創る。今回の「次」の政策で、17項目全てを網羅していることがそれを示している。

「基本理念と佐賀県の目指す将来像」で六つの政策の柱それぞれが、SDGsの17目標のどれと関連性が高いかを示し、県政の課題とSDGsを分かりやすくリンクさせている。県政課題は「SDGsの目標は佐賀県が抱える課題と重なり、まさに県政そのものとも言える。県としては変わらざる。県民にそれがSDGsとつながっていることに、後からでも気付いてもらえたら」と話す。今回の「次」の政策で、17項目全てを網羅していることがそれを示している。

### 県総合計画に見るSDGs

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。

全ての国の社会課題を対象とした17のゴールと、その課題ごとに設定された達成基準である169のターゲットから構成されます。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

FSC貢献するSDGsの11の目標と35のターゲット(達成基準)

# 九州SDGsアクションガイド

～SDGsを原動力とした企業と社会の持続的な成長に向けて～



経済産業省九州経済産業局



# 九州環境・エネルギー産業 Data Book

令和2年3月  
経済産業省  
九州経済産業局



## 環境に配慮した森林認証製品を提供し、持続可能な木材利用を目指す

持続可能な森林の活用と保全のため、「植林～保育～伐採」のサイクルを適正に管理し、周りの生態系にも十分配慮した森林の木材を利用。同時に環境と社会に責任を持つことへの普及啓発や「共感」を育むコミュニティの形成、森林教育等を行いながら、地域材やFSC認証の木材・木製品の利用を広げる取組を行なっている。

### 【経緯・背景等】

中村製材所が位置する筑後川流域は、上流に日田林業、下流に大川・諸富家具、流域内には多くの製材所が存在し、林業・林産業関連の産業が帯となってつながる地域。1960年代の木材輸入自由化、円高による輸入材拡大などの影響で1990年代後半には木材自給率が20%となる中、当社では1999年から国産材特に地域材に触れる機会をつくるため、児童・生徒の机やイス、校舎の木造・木質化などに尽力してきた。

### 【具体的な取組】

#### 環境に配慮したFSC®森林認証製品や地域材の提供

2006年にFSC®\*COC認証を取得。九州電力や宮崎県諸塚村が管理するFSC®認証森林から調達した木材や木製品を2010年にオープンしたスターバックスのグリーン®店舗1号店となる福岡大濠公園店をはじめ、林野庁の研修施設、三越日本橋本店、WWF Japanに、地域材を佐賀県庁知事室などに提供している。

\*FSC®: Forest Stewardship Council® (森林管理協議会)。森林の管理や伐採が、環境や地域社会に配慮して行なわれている森林を認証する国際機関。当社ライセンス番号FSC® C022549

また、若い木(小径木)を資源として活用した「SKINWOOD®」(桧・杉壁面や家具材)を開発し、林業・林産業界と社会の持続的発展を支えている。

### 【取組んだ成果】

木材を通じて、地域コミュニティや企業・行政・金融機関など「産学官民金」の交流により新たなビジネスの取組につながっている。FSC®認証木材の市場創出にはユーザーの「共感」が必要との認識のもとに行なっている森林・環境教育の活動やニーズ対応商品の開発などが評価され、「佐賀さいご企業」(2019年)、「ウッドデザイン賞2018」等を受賞。環境と社会に対して責任を持つことへの理解を広めることで、持続可能な木材利用を推進している。

### <企業プロフィール>

社名 株式会社中村製材所  
創業 1950年  
資本金 300万円  
所在地 佐賀県佐賀市諸富町为重385-1  
代表者 代表取締役 中村 展章  
従業員数 4人 (2019年8月1日時点)  
事業内容 FSC® 認証・地域材製品の製造・販売



九州電力の森林



桧壁面材「SKINWOOD®」(佐賀県庁での利用)



(国際NGOでの利用)

## 持続可能性や生物多様性に配慮した木製品の製造販売

株式会社中村製材所 (佐賀県佐賀市) 54

### 自然環境保全分野

- ✓ FSC認証品や地域材を活用した木製品
- ✓ 特許(超薄板)商品 SKINWOOD®製品
- ✓ 持続可能性や社会課題解決に係る提案

### 【企業概要】

日本を代表する家具産地内にあることから、そこで育まれてきた高度な木材加工技術を活用し、集成材加工や突板加工等を実施し、より付加価値を高める取組に力を入れてきました。各地で育った木材を当社が集成材や突板に加工し、地域内外の家具メーカーや建材メーカー等と連携した取組も積極的に展開しています。

### 【自社の強み/顧客へのメッセージ】

FSC森林認証材を取り扱う流通であることと認証するCOCを取得し、FSC認証木材の流通、家具・建築用資材の開発・流通に取り組んでいます。併せて、SDGs(持続可能な開発目標)の啓蒙活動にも取り組んでいます。技術面では、特許商品のSKINWOOD®を開発して、木材の最大価値化に取り組んでいます。さらに、抗菌・抗ウイルス対策を施した商品についても開発に取り組んでいます。

### 【外部に求めること/今後の展開】

木材は、国内で再生産が可能であり、持続的に利用できる数少ない資源です。当社では、社会価値を伝えられる森林認証材を取り扱うとともに、大切に育てられた木を有効活用し、木材の経済価値を最大化させるべく、小径木や低利用の部位を材料とする突板の開発・製造に尽力しています。今後は、木材のさらなる有効活用と地球温暖化緩和の観点から、製造段階で発生する端材や最終廃棄段階における役割を終えた高品質のエネルギー利用を考えています。中でも、エネルギー効率やエネルギー-地産地消等を考慮し、地域で運用可能な小規模木質バイオマス熱利用に注目しています。

販売実績: 国内外

代表者: 代表取締役 中村 展章  
創業: 昭和25年 / 資本金 300万円  
事業: 木材製品製造業

所在地: 佐賀県佐賀市諸富町为重385-1  
連絡先: TEL. 0952-47-3100 / 担当 中村  
mail: nakamura.lumber@proof.on.ne.jp

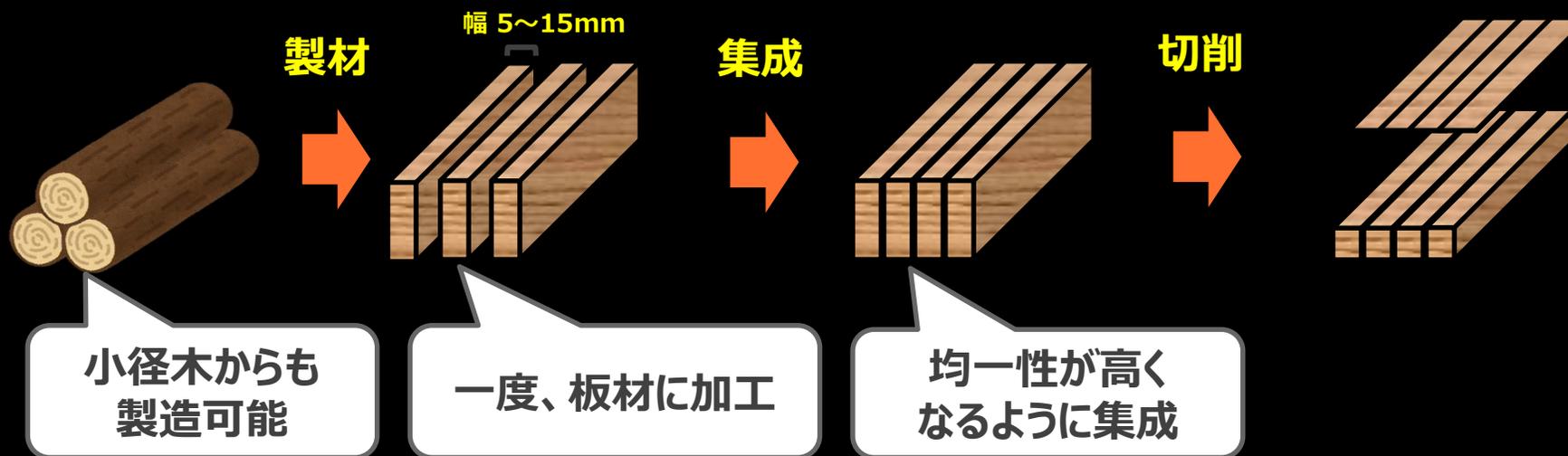
URL: www.kanejin.jp  
受賞等: ウッドデザイン2018(平成30年)、佐賀さいご企業賞(令和元年)

# SDGs「SKINWOOD」 施工事例



# SKINWOOD

小径木等を一度板材に加工し集成後、突板を製造



## 【SKINWOOD（小径木集成突板）の特徴】

- ・小径木を活用可能(生産林の植林から伐採までのサイクルを早める)
- ・大量生産が可能
- ・均一性が高い(広い面積)
- ・美しい木目を実現(地域材・FSC認証材の活用)
- ・施主・設計者・施工業者・産地・納入業者が使いやすさを共有できる等

# 佐賀県庁(知事室・来賓室・応接室)



# 佐賀市役所



# 九州電力共創館「ビズコリ」



# WWF ジャパン 東京オフィス



# Cygames佐賀ビル



# 環境先進国の技術と日本の技術の融合の取組み

～佐賀の未利用資源でサステイナブルな家具をつくる～



麦わら、もみ殻、古紙、海苔の残渣など  
佐賀市内に賦存するセルロース系バイオマス

セルロース系バイオマスから  
シックハウスの原因を排除し、  
サステイナブルな合板を  
形成する技術・ノウハウ

ECOR



Dutch Design



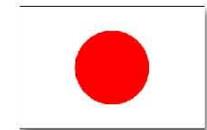
集積と供給  
支援



佐賀市

再生可能エネルギーの供給  
様々な規制への働きかけ

Japan Design



佐賀産木材を張り合わせる突板技術



諸富家具  
振興協同組合

佐賀・諸富地区は日本最大の家具産地・大川地区  
に隣接する家具製造業の集積地です



CRADLE TO CRADLE CERTIFIED + FSC認証

→環境性能が認められた家具として国内外に市場に展開



# 特許証

(CERTIFICATE OF PATENT)

特許第6360461号  
(PATENT NUMBER)

発明の名称  
(TITLE OF THE INVENTION)

突板の製造方法

特許権者  
(PATENTEE)

福岡県大川市大字向島2155-1

中村 展章

発明者  
(INVENTOR)

中村 展章

出願番号  
(APPLICATION NUMBER)

特願2015-146124

出願日  
(FILING DATE)

平成27年 7月23日(July 23, 2015)

登録日  
(REGISTRATION DATE)

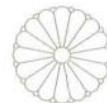
平成30年 6月29日(June 29, 2018)

この発明は、特許するものと確定し、特許原簿に登録されたことを証する。  
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE PATENT IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

平成30年 6月29日(June 29, 2018)

特許庁長官  
(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

宗像直子



# 商標登録証

(CERTIFICATE OF TRADEMARK REGISTRATION)

登録第6162720号  
(REGISTRATION NUMBER)

商標  
(THE MARK)

SKINWOOD

指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分  
(LIST OF GOODS AND SERVICES)

第19類 木材

商標権者  
(OWNER OF  
THE TRADEMARK RIGHT)

佐賀県佐賀市諸富町為重385-1

株式会社中村製材所

出願番号  
(APPLICATION NUMBER)

商願2018-166112

出願日  
(FILING DATE)

平成30年12月28日(December 28, 2018)

登録日  
(REGISTRATION DATE)

令和 1年 7月19日(July 19, 2019)

この商標は、登録するものと確定し、商標原簿に登録されたことを証する。  
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE TRADEMARK IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

令和 1年 7月19日(July 19, 2019)

特許庁長官  
(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

松永 明



# ウッドデザイン賞受賞 2018



ウッドデザイン賞受賞



JAPAN WOOD DESIGN  
AWARD 2018

- ① 事業概要～森林と都市をつなぐ～
- ② 弊社が取り組むDD
- ③ 環境社会配慮～SDGs への展開～
- ④ SDGsを通して感じること

SDGsを通して感じること

「人」が変わる

# 企業内SDGs研修(人材教育)



# 第126回エコ塾 唐津



## 第126回 エコ塾 in 唐津 ～新しい潮流、未来に向けて～ 「SDGsに企業が取り組む意義」

参加者募集

日時 R1.9.6(金) 講演会 15:30～17:45  
懇親会 18:00～19:30

会場 唐津市民交流プラザ 多目的ホール  
唐津市東区内1-1 大手町口ビル213号  
懇親会：オカリナ1 (会費3,500円)  
唐津市東区内1-1 大手町口ビル211号

環境ビジネスの輪を広げる異業種交流会「エコ塾」

幅広い情報収集・活発な意見交換

産学官金の新規ネットワーク開拓

新製品・サービス開発の加速化

九州環境エネルギー産業推進機構 (K-EIP) 及び九州経済産業局は、環境・エネルギー関連産業における人材育成、ビジネスマッチング、新規ビジネス創出を推進するため、平成15年6月に「エコ塾」をスタートしました。これまで企業・団体、行政、大学、学生等およそ7,000名に参加いただき、日本最大級の環境ビジネスネットワークを形成・拡大しています。

＜講演会＞

会費  
無料



「ユニークな製品・技術・取組のプレゼンを聴講できる」  
「ビジネスに直結するヒントを得られる」  
「環境ビジネスに関心の高い様々な業種の方が参加する場」

＜懇親会＞

会費  
3,500円



「産学官金のネットワークの魅力や可能性を体験できる」  
「自社の優れた製品・サービスを効率的にPRできる」  
「人材育成の機運によってビジネスの輪を厚くできる場」

＜1分間スピーチ＞

懇親会の乾杯前には、希望者（要事前申込）による1分間スピーチを行います。

【主催】

九州環境エネルギー産業推進機構 (K-EIP)、唐津市、九州経済産業局

【お問い合わせ先】

九州環境エネルギー産業推進機構 (K-EIP) TEL: 092-474-0042 / FAX: 092-472-6609 <担当> 松下 <https://k-r.jp/>

1. 15:40～16:40

「SDGsと環境ビジネスの広がり」  
凸版印刷株式会社

コーポレートコミュニケーション部 部長  
今津 秀紀 氏

2015年9月に国連本部で採択されたSDGsが国内企業に浸透してきました。SDGsを積極的に活用して社会的課題の解決につながるビジネスを広げています。本セミナーではSDGsとは何かの基本から企業がどのようにSDGsを活用しているのか、そして、環境ビジネスの優良事例や官民連携の事例までを一通り紹介します。2022年大阪・関西万博の開催目的は「SDGsが達成される社会」。ぜひSDGsを上手に活用してください。

2. 16:40～17:05

「社会課題解決は企業としてビジネスとして成立するか」

認定NPO法人 地球市民の会  
副理事長 大野 博之 氏

2019年6月佐賀県内の介護事業所の社長とボランティア組織の副理事長である私は、タイの南部の地にビジネストリップをした。彼は事業上の人手不足をカバーする目的で、私は30歳以上タイで教育支援をしてきた経験とタイ国内の移住による自国の産物の流通とを目的に、お互いの目的は違っても、同じ手段でそれぞれの目標を達成しようとする。同じ手段とは「食べて育ける技術を身に付けさせる」ということだ。今、お互いに違う世界観と抱えられていた企業とNPOの関係性はパートナーとして繋がる関係になった。SDGsを介しますますその流れが進む今、社会課題解決が企業の新規事業を生み出すビジネスチャンスとなり得るかを考えていく。

3. 17:05～17:30

「社会と経済を変えるSDGs」

株式会社中村製材所  
代表取締役 中村 肇 氏

森林の活用と保護のために、「植林～保育～伐採」のサイクルを適正に管理し生態系にも十分配慮した木材を利用することで、環境と社会に対して責任をもつことへの理解を進めることを目指して社会活動と事業活動に取り組んできました。具体的な商品においても、サステナブルな観点から森林認証 (FSC®) 木材など適切な材料を用いることで地球環境や持続可能な社会に貢献した炭板 (超厚板) 製品である「SKINWOOD®」を開発しました。



お申込は  
ウラ面へ

# SDGs Academy SAGA (人材育成)

主催：地球市民の会(後援：佐賀県)

## 地元企業の取り組みを発表



**「スターバックス × 中村製材所」SDGsの取り組み**



SDGsを通して感じること



「人」が変わる

セミナーに参加された方は



「人を変える」きっかけ

ご清聴、有難うございました